

令和元年度第1回鎌倉市環境審議会会議録

- 1 **開催日時** 令和元年5月28日（火）午後1時45分から午後3時16分まで
- 2 **開催場所** カトレヤサロン（カトレヤビル2階）
- 3 **出席者** 猿田会長、山本委員、池貝委員、小田委員、川口委員
廣瀬委員、中村委員、村田委員、熊田委員、落合委員
- 4 **事務局** 植地環境部次長、戸川課長補佐、兼村職員、古賀職員、島田嘱託職員
- 5 **議題** 1. 鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）策定等スケジュールについて
2. 鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）計画素案について
3. その他

6 配付資料

（事前配布資料）

- ・ 鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）計画素案 5/24 案

（当日配布資料）

- ・ 審議会次第
- ・ 資料（1）鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）策定等スケジュール表
- ・ 平成30年度第4回鎌倉市環境審議会会議録

（当日貸出資料）

- ・ 第3期鎌倉市環境基本計画
- ・ 平成30年度版かまくら環境白書（平成29年度実績）
- ・ 鎌倉市エネルギー基本計画・実施計画

7 会議内容

出席人数の確認後、配布資料の確認を行い議事に入りました。

議題1 「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）策定等スケジュールについて」

猿田会長 それでは議題に入ります。「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）策定等スケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

戸川補佐 議題1「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）策定等スケジュールについて」説明。

猿田会長 ただいま「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）策定等スケジュールについて」説明がありました。ご質問、ご意見はございますか。

廣瀬委員 8月までに作るというものが、環境審議会の関わり方が1月まで伸びたという感じになるのですかね。お願いなのですが、庁内的な処理の分、前回の庁内会議で、ワ

ーキンググループを作るということでしたが、庁内調整を済ませたもので、審議会に臨むような形で進めて頂けませんかね。協力したいと思っているので言いますが、当初のスケジュールと全然違う要素が出て来て延びるといのは、違和感がありますので。今言っても仕方ありませんが、指摘だけさせていただきます。

植地次長 はい。

猿田会長 ちょっとよく意味が分からないんだけど。

廣瀬委員 つまり、こういうことをしたいですよという話を、この会が作って行くわけではありませので、意見をその都度言っているわけですが、作り上げる目標が、8月までに審議して欲しいということできていたのですが、今の説明ですとそうですね。それが、やっぱり庁内でワーキンググループを作ってそれで揉んだもので、まず意見を貰いましょう。これって前からやっている、例えば、カーボンマネジメントや照明なんかの関係は、従来からずっとやっていることなので、この時点で、ワーキンググループを作るので、スケジュールが伸びますよというの、私は、違和感があるんです。そういう意見を申し上げました。事務局わかりますか。

植地次長 当初のスケジュールとちょっと変わってしまったということは、うちの方も見通しが甘かった部分もありますが、もう少し念を入れてという意見が、構成員の部長や副市長からありましたので、当初の予定と変更になってしまった点はたいへん申し訳ないのですが、皆様にもご協力頂ければと思います。

猿田会長 事前に、そういうふうにしておこうというの、おかしいのではないですか。というのは、ワーキンググループに審議会が左右されるものではないのですよね。審議会の存在価値そのものがね。ワーキンググループがむしろ審議会の意向に参酌する必要があるのであって、場合によっては、忖度するのであるかもしれないけれど。ワーキンググループがどういう意見をまとめたかが、先にあるべきものではないんだよね、審議会というものはね。いや、ここはそうしなければ嫌だと私がいつているわけではなくてね。審議会の立ち位置というものはそういうものなのであって。ですから、それをこう発言されると困るということもあるんだよね。内容的に。

廣瀬委員 意見は意見です。私もどうしてほしいと言っているわけではなくて、指摘をさせて頂いた。もともと意見ですので指摘だけにとどめていますので。記録には残して下さいね。

猿田会長 ご意見として賜っておきましょう。それから、パブリックコメントが12月でしょう。10月の審議会ですでにだいたいまとめるわけですね。

戸川補佐 はい。

猿田会長 最終案というか、パブコメにかけ案を。パブコメにかけ案は、審議会として出したものでかけなければいけない。10月の審議会にかけたものを、パブコメにかける。その間、けっこう時間があるわけだけでも、これは、政策会議が11月だから、政策会議に、10月の審議会の案を政策会議にかけて、そこでまた内部的なものにかけ。それこそこれは重要なわけですよね。内部でやらなければいけないのであって。最終責任を持たなきゃならないのは政策会議なんだから。その結果をまってパブコメにかけ。

そこに常任委員会が唐突にあるよね。常任委員会はパブコメの意見とは別でしょう。

戸川補佐 パブコメにかけているものと同じものを常任委員会で報告します。

猿田会長 それならわかります。何かこのへんでご質問があればどうぞ。その辺を明確にしておかないと。パブコメの結果を受けて、また加筆訂正があるならばして、1月に最終的にまとめるということですか最終案を。その間、ワーキンググループでいろいろおやりになることがあればやっていただく。ワーキンググループは5月からはじまっているので8月までにいろいろご意見をまとめるんだらうけど。皆さん、よろしいですか。

小田委員 計画変更にあたって4月26日の会議でどんなことが議論になって、どういう指針でどういうふうにしていこうか、出せる部分があれば聞かせて頂きたい。

戸川補佐 そもそもはワーキングは設置せず、庁内照会をかけて、なるべく早い時期として8月に計画をまとめ、公表をと考えていたのですが、前回の審議会で、ご意見を頂いたものを、計画素案に落とし込んでエネルギー施策推進委員会にはかったところ、「庁内照会で済ますのではなくて、関連する計画を持っている課、それから省エネ診断を行った課、そこでも設備の更新等のスケジュールを持っていることから、そこも、もうちょっと時間をかけて綿密によりきめの細かいより実効性のある計画にしていかなきゃいけないんじゃないかという意見を頂きまして、それを受けてよりきめの細かい計画にしていけたらと私どもも判断して、スケジュールを変更させて頂きました。

小田委員 建物の更新計画も含めてみたいなのは良いことだなと個人的には思いました。より良い物にしていくという意味で。

猿田会長 問題は実行しやすいということそこが問題です。実際にやる立場の市の職員の方は大変なので。気にすることは出来るけども、実際に行う立場の方は苦勞なんだと思います。ほかにはいかがですか。

中村委員 ワーキンググループ作って、計画素案の検討、見直しを庁内自らの意見で立ち上げてやっていくということに関しては、ごく当然のことというか、こういう課題に関しては、自然な流れだと思ふし、必要な流れだと思ふます。そういう意味では見直しました。良かったと。

猿田会長 これは本当に自分たちでどうやっていくかは大変なことですから、良く見てもらって結構です。それと、全体の計画としてどう進めるかまたその上にある訳で政策会議等あるわけで、その辺との調整が必要です。では、スケジュール的なものについてはよろしいですか。了承するというところで。それでは次の議題に移らせて頂きます。

議題2 「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）計画素案について」

戸川補佐 「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）計画素案について」説明。

猿田会長 ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますか。

廣瀬委員 前回お願いしたところは修正されていて、これなら良いと思ふますが、特別な専門用語だったらいいのですが、27ページに、下水道施設の記述があるのですが、その中に「ポンプ場施設を一括化するなど」とあるのですが、例えば再編するとか、そういうことを言っているのですか。一括するとは、市内にポンプ場がたくさんありますね。

だから、それを新しい形で再編するとかそういうことですか。一括化とは、もしそこは庁内調整前なのであれば聞いてみて下さい。

戸川補佐 はい。わかりました。

猿田会長 ポンプ場の一括化ですか。

廣瀬委員 再編という意味で言っているのかと想像するのですが。

戸川補佐 減らすというニュアンスです。

廣瀬委員 国交省の方で、出している指針とか、使っている用語であれば、それはしょうがないのかと思いますが。

戸川補佐 確認を致します。

廣瀬委員 お願いします。

猿田会長 流すために、ポンプアップしなくてはいけないということもありますね。そういう場所が必要なのに、ほかに持って行って一括化したのでは意味が無くなるわけで。むしろ、効率的にどう改善していくかという意味で、廣瀬委員がおっしゃっているのだと思いますので、そこは調整して下さい。一括化とはどういう意味なのか。ほかにどうぞ。

山本委員 2点あるのですが、1点目が2ページ目の表1-1の中に、「2030年(令和42年)」の表記が2カ所あるのですが、括弧内はおそらく平成の年号で書いたものが、そのまま残っているのではないですか。もう1点なのですが、いろいろな施策が書いてあるのですが、全体として見て少しだけ違和感があるのが、コストに関するところが全然記述がなくて、要するに、更新とか施策があるのですが、最小のコストで最大の効果、つまりCO₂削減を達成するそういった方針とかコストの記述が、一切無いんですよ。ですから、どこか施策、例えば22ページの基本方針ですか、そのあたりにそういったものを入れておけば、これからワーキンググループで検討する時の指針になるのではないかと思いますので、それは、是非入れておいて頂きたいというふうに思います。

猿田会長 他に。

池貝委員 「エネルギー・ミックスの考え方を考慮した」という記述が4カ所ぐらいあるのですが、そこで、国のエネルギー・ミックスはいいんですが、より環境配慮型の電力を積極的に取り入れという部分が、具体的にどこにどのくらい何を、っているのが、はっきりと明示されていなくて、例えば、24ページだと削減率24%が40.2%まで上がる。結局、上昇する部分が、エネルギー・ミックスの部分だろうということですが、その根拠ですかね、試算の根拠みたいなものが、どこかに入れておいたほうがいいのかという気がしました。要するに、排出係数の低い事業者をどのくらい、そこから購入すればここまで減るのか、その部分がかなり漠然としているような気がしたので。

猿田会長 短期的ではなく、必ず長期的に使わなくては意味がないわけで、今年ここをやりました、来年はこっちでというわけにもなかなかいかないだろうけど。そこは十分考慮して。

池貝委員 おそらくシミュレーションをしてだと思いますが。

植地次長 はい。

村田委員 一般市民の目で読んだ時に、分かりにくいことがありました。一番入るといいかなと思ったのが、まず2ページのP D C Aが、いろいろな所に出てくるが、わかるようではわからないので、言葉の定義があるといいかなと思いました。6ページの上から4行目のE S C O事業というのがわからない。防犯灯のE S C O事業のところも注釈があるといいと思います。後、24ページの上から6行目の国のエネルギー・ミックスがどういふものなのかなと、ちょっと知りたかったので何か注釈が入るといいと思いました。

猿田会長 これは何か付けなかったでしたか。付けますか。

戸川補佐 まだ付いていないです。どのレベルまで付ければいいのかというのものもあるんですが。

猿田会長 もし正式に後ろになにかをつけるならつけるでいいけど、うまくいくかどうかわからないけれど、脚注的にね、下のところに、24ページなら上のところに、線を引いて、ちょっとした注をページごとにいければ、そうすれば何か所か入れられる。24ページに入れるとか、そういう形でやってもいいですね。

村田委員 もう一つ。25、26ページの廃棄物処理施設に関して、先日、鎌倉市では、ごみ焼却施設を造らないとのことを「広報かまくら」で拝見しました。一般住民としては、ほっとすると共に、感謝の気持ちで今暮らしているところです。これから、さらに感謝の気持ちを持って将来世代のためにもゴミを減らしていきたいなと思っています。そのことを考えたときに、ごみは「広域処理をする」とのこと。25ページの中では、2017年には2,895だったものが、2030年1,710と大幅に減るとの数字がでていますが、きっと鎌倉市がゴミを燃さなくなることで温室効果ガスも少なくなるという予測だと思います。数字では減っているように見えているとはいえ、やはりごみを減らさなくてはいけない状況は同じだと思います。広域で処理をするにしても、ちゃんと鎌倉市のごみの排出量は、これだけの数値だから、今後もごみを皆で減らしていこう、と、数値化・見える化して、分かりやすくごみ減量の大切さを市民に伝え続けていく必要があると感じました。また、将来的には、今度は広域連携で一緒にごみを減らして行こうねという、新しいステージのごみ処理のあり方や省エネを考えていく必要もあるのではと思いました。

植地次長 ごみ処理広域化の実施計画は今策定中です。ごみのことについては、ごみの計画の方で、細かいことを載せていくと考えています。

猿田会長 今のは、ご意見として承ります。ごみ処理は廃棄物の法律に基づいて、長期計画も立てなくてはならない問題もあります。それと藤沢とも踏まえて、お隣の逗子とも踏まえて広域的なごみ処理の計画もあるので、その中でどうやって対応するか、10年以上も前から検討はされているんです。ただ、進まないだけの話であって。例えば、藤沢は隣町のごみを処理して上げている。処理施設が老朽化しているのでやってあげている。そういう広域対応もなされている。今明確にならないことは、この中で書くわけにはいかないの、こっちの計画として、鎌倉が勝手に書いてしまうわけにもいかない。計画が進めば、むしろ廃棄物処理法に基づく国の方の年次報告を出していますから、そちらのほうを読んでいただければ明確になると思います。

廣瀬委員 折角、環境系の審議会の一つなわけですから、場が違っていても関連するご意

見であれば、まして市民の目で見るとおっしゃっているのも、事務局の方で、横の連携をとって、こんな意見がありましたよとごみ減量審のほうへ投げたらいいのではないかと思います。

猿田会長 事務局の方でこういうご意見がありましたと対応していただけたらと思います。他に。

川口委員 全般的な意見になってしまいますが、鎌倉市がSDGs未来都市になられて、4期の基本計画もSDGsに基づいて、目標に向かっている。それが書いてあるのは3ページだけなので、もうちょっとこのマーク自体も、もう少しはっきりしたほうがいい。いろいろ関連するのが、たくさんあって、ここでは14番と15番を先ほど付け加えていただいたとご説明があったのですが、実はいろいろ細かく他にもパートナーシップとか産業的リクスとか、そのへん関連してくると思います。だから、書き方としては、この下に書いてあるものについて推進します、と書いてあるのですが、他にも出てくるよ、というニュアンスの書き方をされたほうがいいと思います。温室効果ガスの削減は、まさにSDGsの目標いくつかの、さらに下の169のターゲットとかありますね。それにドンピシャリのやつもあるので。場合によってはこのマークをいっぱい使って、関連するところには、そういう目標をターゲットなんかに対応して、その指標としてこれをクリアしていくみたいな方針が考えられます。今からやるのは大変なので、ちょっと作業として今やれという話ではないのですが、それをやると言っているわりに3ページしかないという感じです。そういうことで、その辺を何か工夫をされると全体が今その動きでされていると思うのでそうしたほうがいいのではないかと思います。環境審議会はまさにSDGs鎌倉の意識が高いので、そうしていただけるといいのかなと思います。鎌倉市が先導してやっていくニュアンスを出したほうがいい。このマークを上手く使って、3つくらい張り付けたりするのもあるかと思います。関心があると思うので。マークをもっと活用して記述するとよい。

猿田会長 私からもいくつかいいですか。12ページの中段のところ「2014年度は2013年度に比べ、エネルギー起源CO₂が3,785t-CO₂と大きく減少しています。」というのは、この下の図3-2の21,616から17,831を引いた数字だね。「3,785t-CO₂と大きく減少し」と「と」が入っているので、3,785t-CO₂になったということなんだよね、数学的には。「3,785t-CO₂と大きく減少し」とは、「3,785t-CO₂」になったということなんだよ。「3,785t-CO₂も減少しましたよ」ということなんだよね。表現が数学的におかしな表現にならないよう工夫してください。それから、21ページ表3-3にプラスとマイナスが書いてある。①はプラスなの、それともマイナスなのですか。

戸川補佐 プラスです。

猿田会長 プラスと入れてください。34ページ一番上の所で、OA機器等の使用・購入のところで「プリンターやテレビ等の大型製品は、空間に合った適正な規模の機器を選択する。」の「空間に合った適正な規模の機器」当たり前の話でしょう。1メートルの幅しかないところに、2メートルの物が入るはずがないので、「空間に合った適正な規模の機器」とはどういうことを言おうとしているの。プリンターとかテレビの製品は、空

間に合った適正な規模、こういう表現はあるのか。4畳半に6畳の絨毯入れないのは当たり前でしょう。

植地次長 考えます。

猿田会長 それから37ページ、「表5-1」に鎌倉市役所ってありますね。この30.7とか360.2というのは、2028年に市役所が移転しますね。これは2030年度の数字を出していますね。28年度当時の市役所の規模を考慮して計算したものなのですか。

戸川補佐 いいえ。これは現在の市役所の施設をそのまま使った場合の数値です。

植地次長 今の市庁舎は全く0にしてしまうわけではないので、改修するか、建て替えるかは、まだ確定していないのですが、何等かの形で活用するにあたっては、こういう数値にしていくという方向でこれは作っています。

猿田会長 この中で、2028年に市役所移転させるという表現がどこかにあったよね。それで、それが前に出ていて、ここで30年なんて出てくると、これは30年を想定したのかなと思ってしまう。それだったら、注釈を加えて、これは現状の数字で予測しています。とか、敢えて入れておかないと、28年には移転しますと言っておきながら、ここで30という2年後の数字が出ているんだから。ちょっと合わないんじゃないかな。注釈を加えればいいんだから。それから、41ページから資料集ってありますね。延床面積だけ。これは、今後の対策を講じる上で、こういう施設に対しての床面積を書いたことがどのような意味があるのか。何故この資料をつけたのか。

戸川補佐 省エネ対策のモデル施設が37、38ページにあるんですが、それぞれ1m²当たりのCO₂の排出量の多い施設をモデルに選んでいまして、CO₂削減試算をしています。この計画では市の施設を10の施設分類にしているんですが、モデル施設と同じ分類の施設に対して同様の省エネ対策を講じていくことを想定して、1m²当たりのCO₂排出量の数値を出しておりますので、それで延べ床面積を記載しています。

猿田会長 この前、気象研究所が発表しているけれども、やはり今年も猛暑で、昨年続き、地球温暖化がなせるわざだ、影響だと言っていますよね。今年も起こりうる。小学校、中学校の公立学校には、クーラー入れることにしたでしょう。そういう意味で、例えば、44ページで第一小学校が8,524m²、こういうところに今後エアコンによるCO₂のプラスが出るわけですね。その分を見越して全体の40.2%がどうなるのということも、考えなくてはいけないわけです。学校だけでも十分違うわけです。今後温暖化を2度に抑えようと言っているけれど、なんとかしたいと言っているけれど、実際には難しいので。今年も猛暑が続き、昨日は北海道だって猛暑日が出て、異常気象なんであって。

戸川補佐 学校施設については、普通教室にエアコンを入れるという数値を見込んでいます。26ページのところに記載を加えるようにします。エアコン設置によりCO₂排出量が増えることは見込んでいます。

猿田会長 児童、生徒の学ぶ場として、設備機器の計画的な設備更新を実施、初めて設置するんだよね。入れ替えもあるんですか。

植地次長 10年以上たっているところもありますので、そこも含めて考えています。

猿田会長 それならこれでいい。とにかく、学校はどこの自治体もしている。そのへんの

ところも一言入れておかないと、数値が合わなくなる。私はそういうことが気になったので。

川口委員 猿田先生のお話に関連して、先ほどの市役所の移転のところですが、一応移転して新庁舎、それが、前のページのイメージなのか、いずれにしてもなんらかのエネルギーを消費していきますね。現時点の庁舎の建物は文化施設みたいなものになるように聞いているのですが、そうすると、今の市庁舎は文化施設の分類として、省エネでケアして、新庁舎が建つわけだから、それはそれで項目で、2030で市役所という、そっちの数字でないと矛盾してくる可能性があります。あまり細かいことをいうとあれですが、でも建前と言うか、市全体としては2030年に深沢なりに建っている状態で、市役所ってものを見るわけだから、そうするとそこでの計算値でないと、少しおかしくないですか。そこで想定している省エネ庁舎の数字で計算して行かないと、大きな施設なので、理屈として矛盾してしまっている感じがしてしまう。

猿田会長 37ページのその数値もそれを前提としてやったのかと思ってしまう。

川口委員 するとちょっと矛盾しますよね。

植地次長 新しく作る庁舎については、具体的なものが決まっていないので、この計画に取り込むのは無理な状況です。基本的には出来るだけエネルギーを消費しない建物というのを前提に考えていきます。

川口委員 不確定要素なんですね。

植地次長 今回省エネ診断をしたということで、今の市庁舎をどういう改善をすればよりエネルギー消費量が減らせるかということ、想定してこういう作りになりました。

川口委員 現行市庁舎の建物とか、カッコ書きにして、そうしておいた方が、そういうことを言われたときに計算で合う。現行の新庁舎については計算できないのは、それはできないということ、いいと思う。現行市庁舎とか、かっこ書きで書いておけば間違えはないかなと思います。

熊田委員 単純な質問ですが、学校施設なんか使って夜間、ナイターって言っていますが、あれは対象にならないのですかね。夜間に野球やサッカーをやっていますよね。私の家の下に深沢中学校のグラウンドで照明を使っています。僕なんかから言わせれば、用が済んでからも煌々としているわけです。あれを節約するだけでも違うと家で言っているわけです。ああいうのはここには入っていないんだけど。量的にそんなに少ないというわけでもないと思うのですが。

植地次長 基本的に、夜間の消費エネルギーも含んだ形で2013年度ですとか2017年度二酸化炭素排出量は、計算されています。今おっしゃったようなことは、通常の使い方の中には入っていませんので、そこまで含んだ改善策としては入れていません。

熊田委員 何故そういうことを言ったかということ、関連でね、あれは誰が消すんだということになりますよね。P D C AのD oは誰がやるのかということに関わると思ったので聞いたのですが。

猿田会長 それは教育委員会の所管なのですか。運動場の貸し借りみたいなものは。

植地次長 施設管理は教育委員会です。開放した場合、照明のエネルギー消費量が多いの

かと思えます。今回この事務事業編を作りながら、先ほども戸川の方からご説明しましたように、照明はLED化することでかなりの量のエネルギー量の削減が計れると考えていますので、夜間使う場合も含めて、照明の改善というところで対応できると考えています。ただ、現在、必要以上につけているということはない前提で測定しています。

落合委員 学校の夜間照明設備、深沢や関谷小学校にあります。私は関谷小学校の隣に住んでいますが、年間通じてかなりの日数使っています。関谷小学校に関してはタイマーで夜は9時で消えるようにできていると思います。施設を使用した場合には、時間なのでということで、皆さん切り上げるようになっていきます。エネルギー消費量はもの凄いのと思います。あれがLED化出来れば省エネになると思います。参考意見です。

猿田会長 電球をLED化すれば、負荷は小さくなる。

植地次長 ワーキンググループには学校施設の担当の職員に入ってもらうことを予定していますので、今いただいたご意見も伝えたいと思います。

戸川補佐 先ほどご意見がございました深沢中学校、夜間に用が済んだのに電気がついていっているのは、タイマーで一律なのか、そのへんがどうなっているのか確認をします。そしてそういう意見があることを伝えたいと思います。

猿田会長 使っていないなら消すのが当たり前です。

戸川補佐 そういう意見があることを伝えたいと思います。

落合委員 以前は、関谷小学校は管理している方がいたので、終わればすぐ電気をきるようにしていたのですが、今はいないものですから、それでタイマーが設置されて今のようになっているのです。早く終わって電気が煌々としているということが、結構ありますね。私も見ていて無駄だなあと思っています。

猿田会長 人件費か電気代か。

小田委員 8ページの計画期間のところ、「2019年度から・・・」となっているのですが、スケジュール変更があつて、2019年度末ということで、計画期間に入っていて、出来た時にすでに1年が終わっています。それからモデル施設のほうで、CO₂の排出削減量が900トン、期間全体の目標量が9000トンあつて、だいたい10%ですが、これをスケジュールで見ると5年かけてやることになっていて、残りの90%はいつやることになるのか、この中から見通しが見えてないのではないかと。そうして見ると、まず10%は目途が付いているので、残りの90%をどうやるのか、32ページのロードマップの中で調査以上のことをやらなければならないんじゃないかと思っているのですが、そのへんのことかわかるようになるものなのでしょうか。

戸川補佐 表5-1ですが、詳細な省エネ診断を行ったのが5施設で、それ以外で簡易的な省エネ診断を行っている施設が4施設あります。そこでも同じような数字を算出していますので、それを新たに表の5-1に、4施設分を加えて、もうちょっと積み上げをしたいと思います。また小田委員がおっしゃったさらに残りの部分に対して、どういうふうに考えているのかという部分も、10施設に分類しているんですけども、それをそれぞれ、類似施設に同じようなものを波及させていくような積み上げをしていますので、そのへんもわかるように記述をしていきたいと考えています。その辺は、単なるシミュレ

ーションではなくて、ワーキングを通じて実際の設備更新計画等との摺り合せ等も今後行っていきたいと考えています。

小田委員 32ページの1番上で青い点線で、市役所以外で省エネ調査が、2022年から2023年にあるのですが、現実的にはこの調査はもっと前から始まっていて、市役所以外の所にも今後着手する部分があるという理解のほうが正しいですか。

戸川補佐 その辺もワーキングの中でできるものかどうか、現時点では単に参考例としてのロードマップになっていますので、今後、実行性のあるロードマップに変更できるものかどうか検討したいと考えております。

小田委員 37、38ページの表5-1ですが、ここに書いてある数字は、設備機器の更新や運用によるCO₂の削減量とエネルギー・ミックスを考慮した数字があつて、この違いは電源の排出係数の違いだけだと認識をしているんですけど、それによってこの差が何倍も違ったり、10倍も違ったり、むしろ増えたりするものもあるんですが、どうしてこういう風になっていくのかちょっとピンときていないのですが。

戸川補佐 大きく減っているところは、環境配慮型の排出係数の電力使用を想定していて、0.37のエネルギー・ミックスより低い排出係数を想定している施設です。逆に、増えているような部分については、すでに0.37より低い排出係数の電力を、2017年度に使っているところがございまして、11ページをご覧くださいますと、2017年度の丸紅新電力株式会社は、0.362の排出係数なので、国のエネルギー・ミックスの0.37より低い排出係数なので、学校施設については、この丸紅を使っていたために、減らずに増えるという組み立てになっています。

小田委員 例えば鎌倉市役所が10倍も増えているというのは、イメージ的にはゼロミッション電源を使っているということですね。

戸川補佐 ゼロではないのですが、ゼロに近いものです。29ページのコラム3「環境配慮型電力の調達」の横須賀バイオマスエナジーから今後供給を受ける予定なのですが、この運営母体であるタケエイグループが運営するバイオマス発電は0.08という排出係数を用いています。

小田委員 若干離れますが、ここの過去の会議の中で、市のごみの収集で剪定枝を集めているという話がありました。それを、バイオマス発電につながっていくとか、ごみの焼却処理とか、なんか違う使い方も含めて、考えられればいいかなと思っています。

植地次長 横須賀バイオマスエナジーが今年の10月から売電を開始する予定ですが、今おっしゃった剪定枝の一部は、この発電施設のエネルギーとして、供給する予定です。

猿田会長 いろいろとご意見がでましたので、その辺を整理して下さい。ご発言が無ければ先に進んでよろしいでしょうか。

熊田委員 教えていただきたいのですが、東京電力が管内、2年以内に全面的にスマートメーターを入れる。あれは省エネという意味で役立たないですか。

小田委員 2年以内というのは、当時2020年度までに全部取り替えますと約束をして、その計画に乗っ取って進めています。スマートメーターを使うと30分単位の電力消費を業者さん自身がリアルタイムで把握出来て、そういった中から使用量の見える化を通じて

省エネ意識の向上というのが、期待される。その先に、スマートメーターのデータを使いながら、どう需要家も電力消費を変えていくか、デマンドレスポンスというのがあるのですが、そういったものにつなげるような取り組みが今進んでいます。見ているだけではなかなか進まない。

猿田会長 取り換えてくれたけど、さて何をすればいいのってことに。

熊田委員 指導でもあれば役立つんでしょうけど。

小田委員 そういった取り組みはたくさんあるみたいで、一部の登録された方ですが、あなたの家庭は、一般家庭に比べて平均的にどれくらい多いか、少ないか、競争しながらやっていくような仕組みもあるみたいです。

猿田会長 私のところも月に1回パソコンに入ってきます。今月は多過ぎますとか。この暑さではクーラーも入れたくなる。昔は5月にクーラー入れたことはないですが。では、次のその他に移りたいと思います。

議題3 「その他について」

戸川補佐 「その他について」説明。

猿田会長 ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますか。なければ本日の審議会はこれで終わらせて頂きます。